



辛未集
青盛堂梓

松のたまご

そくわが

まらたうらり

このまうら
福船様
とく虎画

分三編



35

30

25

20



A396
3



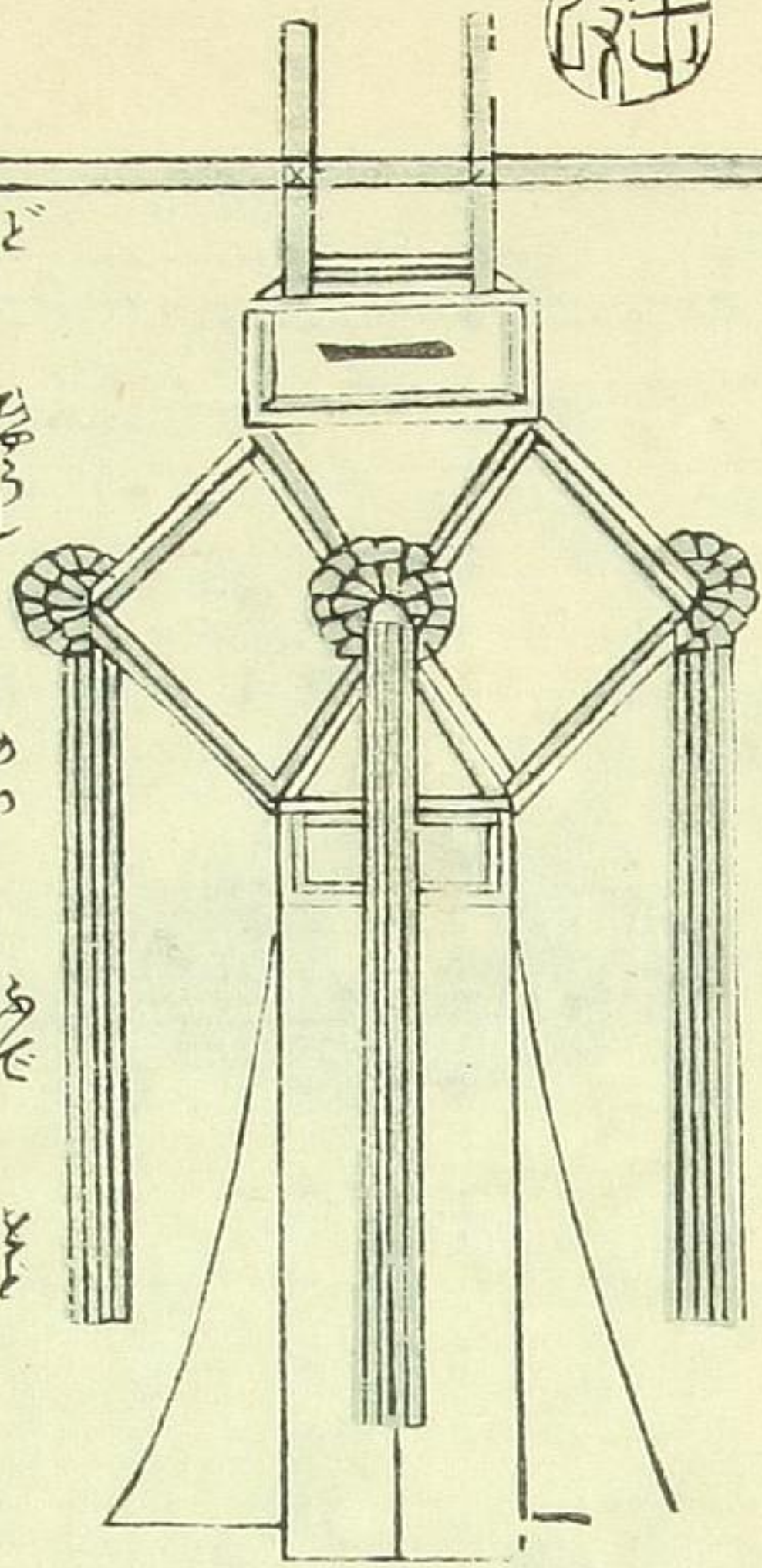
公論三

頭の拍子小乗て筆と踊らまをたをらじ

未孟春

文月小因む

假名の後しるは



曲亭主人が俳諧歳時記秋の部踊躍の條に書言古事と引て訝鼓戲の説より彼王子醇が軍士の教て敵を破り更と惟ふ當端繪の相當と題目踊の漫に題し松飾りの稱小反さるるハ所謂盆

正月を一慶ふとある

踊の輪三編まのツミ

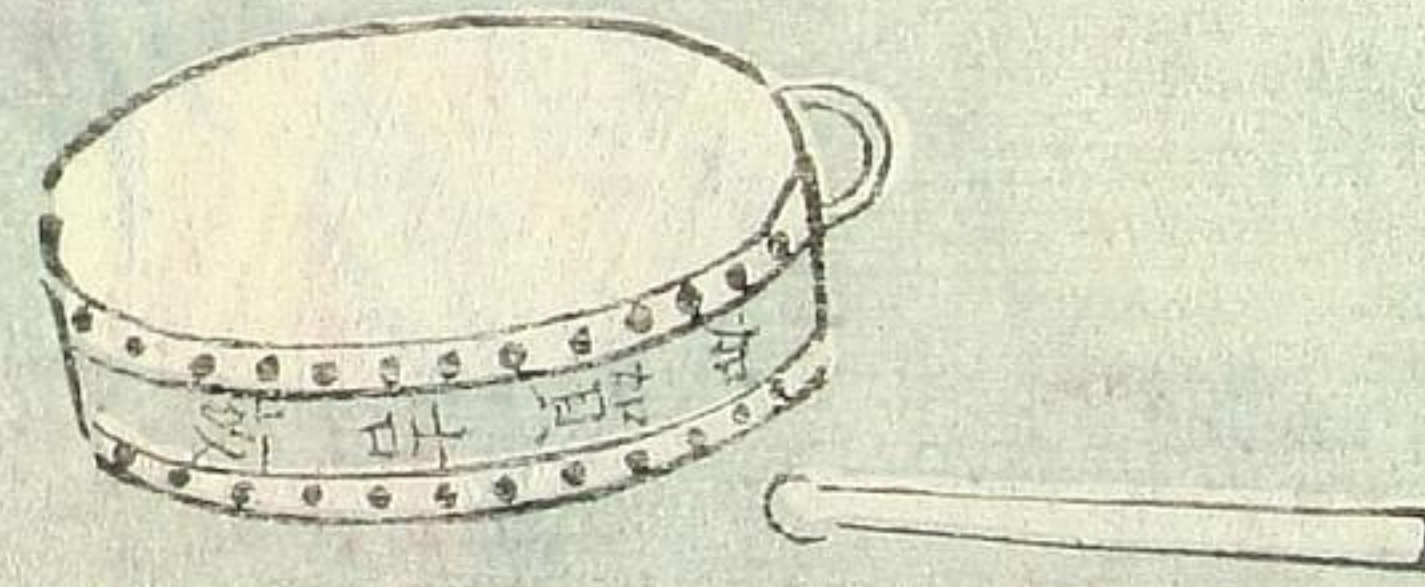
煙草の休つを続つて

四輯の懸踊り書肆が音



可南垣作
線形樓急
三編の上

松のさり
垣の標



七月十五日
 夜定教城下
 西の原
 盆踊り
 空居
 計り
 近の
 嫡子
 延満
 不意
 小城
 援城
 定教

公命



小田
 信定
 入道
 月
 旗
 安祥
 城
 柳田
 播磨
 定教
 文明十巳庚

木良三





○寺田冠者の
延満

○寺田冠者の
延満



討取安
祥延満
の手に
入る
西三河
威勢
と振へり
當家の
栄え此戦
ふ起まり
とぞ
○寺田冠者
延満

村
餘
三



山由の
 めき
 あはれ
 せんぞ
 らい
 せんぞ
 らい



酒肴
 の
 まら
 う
 まら
 う
 まら
 う
 まら
 う
 まら
 う

松倉三



この
 大工の
 唐紙の
 松飾の
 輪車
 松飾の
 松飾の
 松飾の

松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の

松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の



松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の

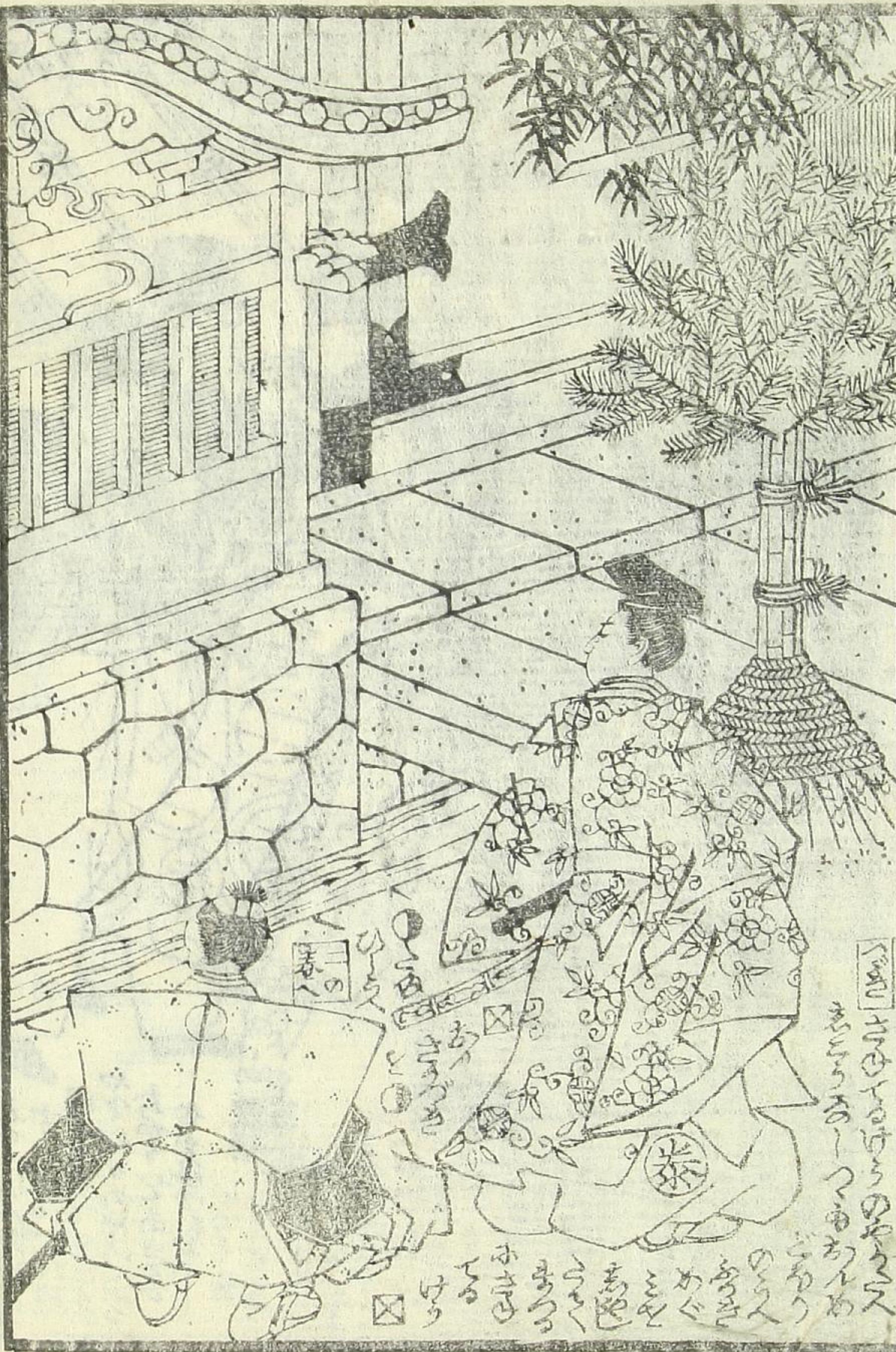
松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の
 松飾の



の巻
 身腹の
 ひびき
 うらやま
 とそよと
 廿三日
 廿四日
 廿五日
 廿六日
 廿七日
 廿八日
 廿九日
 三十日

△山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の

△山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の

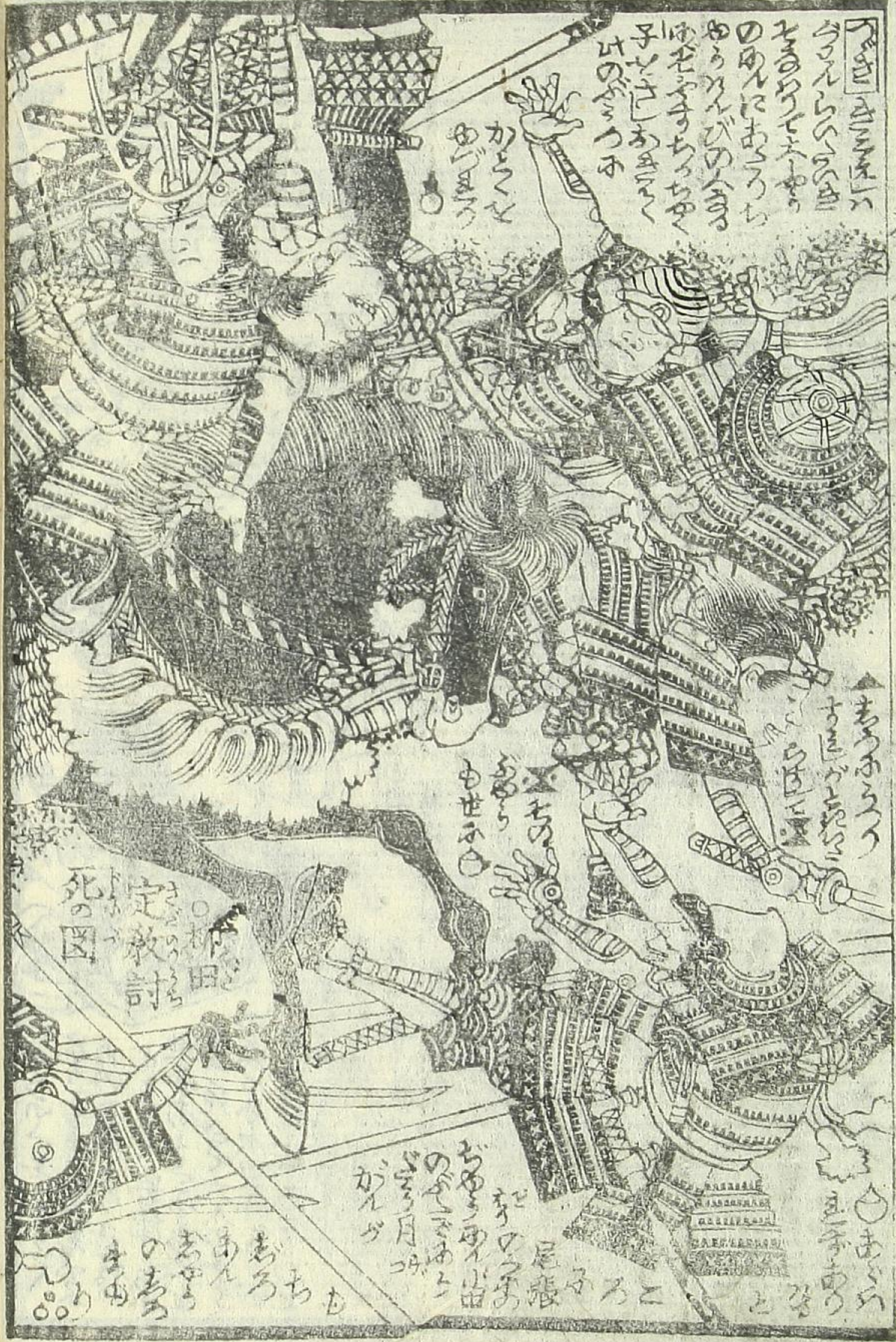


△山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の
 山崎の



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

田の
の
の
の
の



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

死の
定
教
討
の
図

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

松節三



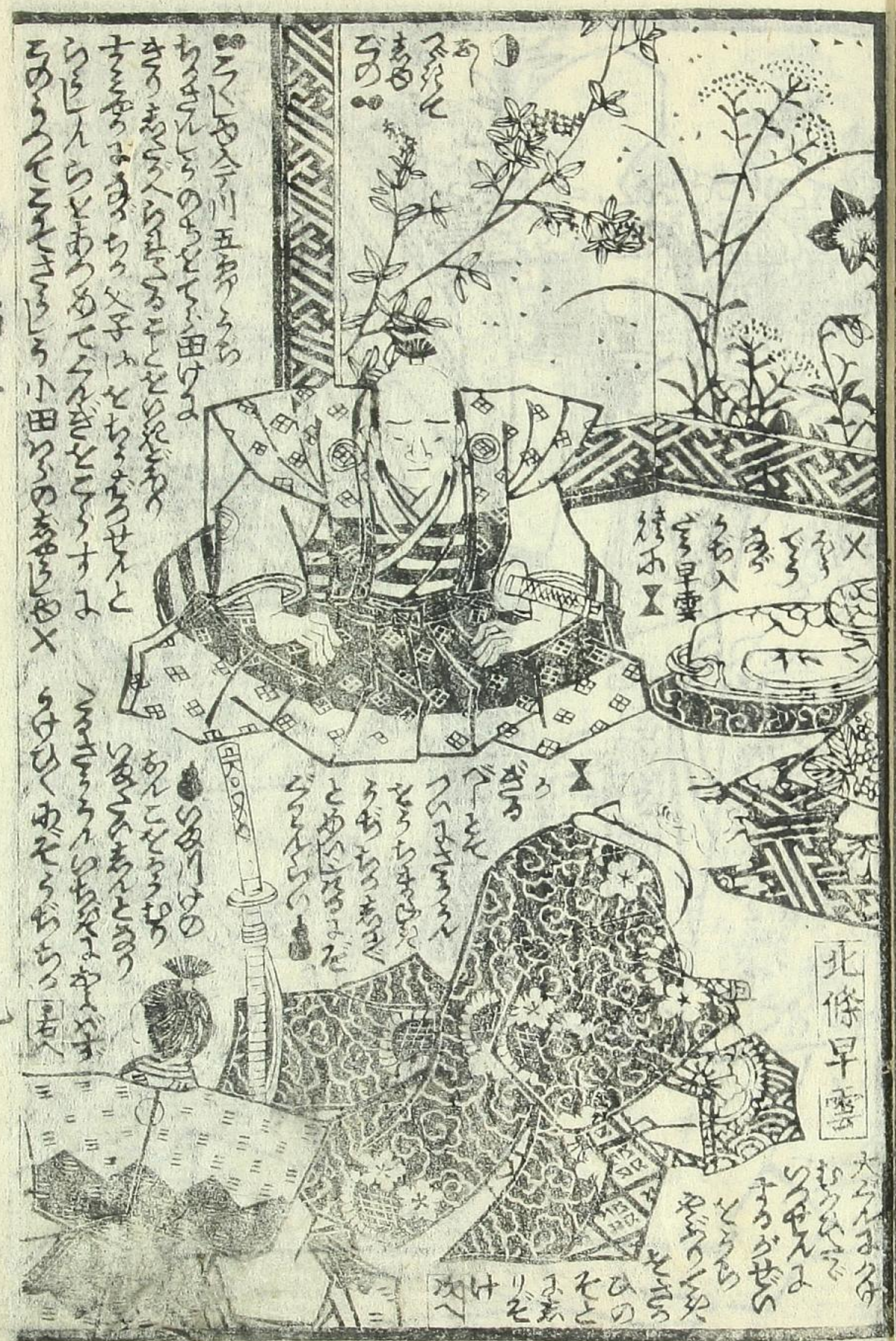
子づくや
 子四十八人
 子づくや
 子四十八人



子づくや
 子四十八人
 子づくや
 子四十八人

松
 三

十



今川氏親の御遺徳を
追慕して文筆の
元ね九月十日

北條早雲の御遺徳を
追慕して文筆の
元ね九月十日



公命三

寺田長親の嫡子
 次郎三郎延忠
 酒色小沈り
 極本者之
 小田の夜川のやちのり
 ひびきなんせうすまろ
 十



あひろくせうしろう
 ひびきなんせうのめん
 めんもめん

松飾三

十

魚目文作

長辺入道

つたつたけの
めつちうちうけの
みありとく
あつ井大つ
さつさつとまのぬ
仁木とちめとて
うちうちひやうだ
せしうさち
まらまら
くまの
いん
のり
みあゆみ
あつと
つちと
あつと
あつと



芳虎画



假名
文庫
いろは節要

初編より
十篇
歌川周重画
山亭有人作

娘庭訓黄金鶴

五編折
山東庵京山作
梅蝶樓國貞画

繪本太豊記

初篇
二篇
孟齋芳虎画作

繪本太閤記

初編より
追出板
孟齋芳虎画作

地本問屋

西國米澤町

加賀屋吉兵衛板

錦朝
櫻芳虎画
亭未春

假名垣魯文作

徳若

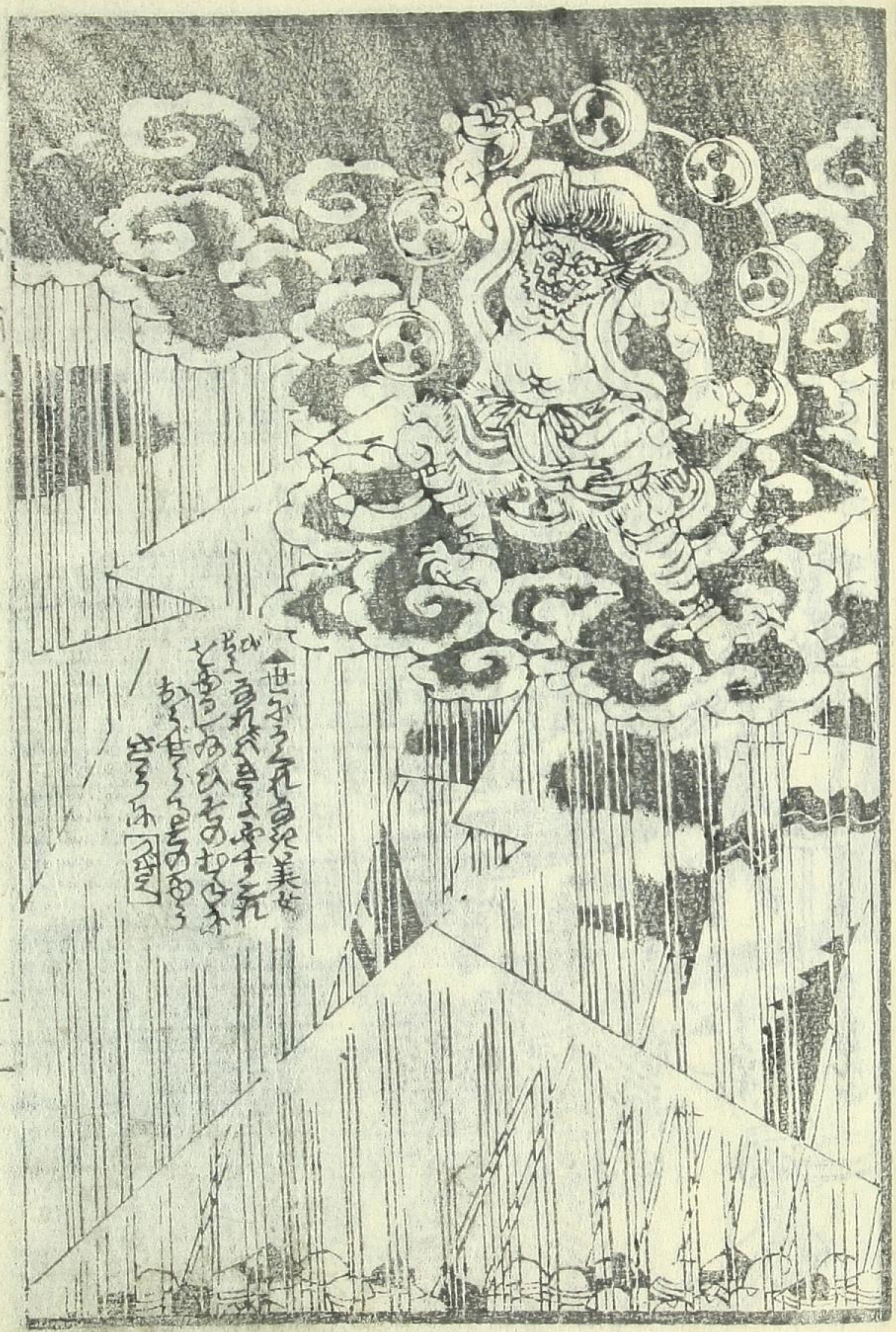
譚

青盛
文庫



三編下





公府三

世にわらわらぬ美世
 けしきよきとてあまの
 とくをいふはたのたの
 ちかづきとてあまの
 ちかづきとてあまの
 ちかづきとてあまの



松節三

いかにいかにいかに
 いかにいかにいかに
 いかにいかにいかに
 いかにいかにいかに
 いかにいかにいかに
 いかにいかにいかに

曾日文綴芳虎画



新增補西國奇談

十八編
十九編
廿編

高永春水作
孟齋芳虎画

縁林娘白浪

六編
七編
八編

假名垣曾文作
孟齋芳虎画

隅田川標柳

四編
五編
六編

柳亭種彦作
山亭有人編次
孟齋芳虎画

地本問屋 西国米澤町

加賀屋吉兵衛校

